

# 人間レベルの 対話システムの 実現に向けて

大規模言語モデルは、対話ロボットのボトルネックであった自然な雑談を行う機能を実現するだけでなく、広範な世界知識を表現するモデルになっている可能性があります。このような大規模言語モデルを基に、今後対話ロボットの研究開発は急速に発展すると期待されます。特に、マルチモーダルな知覚や表現の利用や、記憶のメカニズムの実装が進めば、対話ロボットはごく近い将来に、非常に人間に近い対話ができるようになるかと期待されます。また、その対話ロボットを通して人間理解の研究も進んでいきます。本シンポジウムでは、今後の研究開発において、どのように人間レベルの対話システムが実現されるか、それを我々は社会の中でどのように受け入れ、それを通して何を学ぶのかを議論します。

9.24 [SUN] 日本科学未来館  
& オンライン (Zoom)  
13:00 - 17:30

## プログラム

### 第1部 (13:00-14:35)

13:00 挨拶・趣旨説明 石黒浩 (大阪大学 教授)

#### 13:15 講演

Social Signalを用いた人間らしい音声対話  
河原達也 (京都大学 教授)

人間レベルの対話システムにはどのような理解が必要か  
東中竜一郎 (名古屋大学 教授)

人間のように周囲の状況を理解する対話システムへの取り組み  
杉山弘晃 (NTTコミュニケーション科学基礎研究所)

人間レベルの対話システムの高度化に伴い人間側に必要な課題  
新保史生 (慶應義塾大学 教授)

### 第2部 (14:50-17:30)

#### 14:50 ゲスト講演

基盤モデルはロボティクスをどう変えるのか  
杉浦孔明 (慶應義塾大学 教授)

対話の背後で起きている認知科学的な課題とインタラクション  
竹内勇剛 (静岡大学 教授)

#### 16:35 パネルディスカッション

17:25 閉会挨拶 石黒浩 (大阪大学 教授)

## 参加方法

オンライン・現地のハイブリッド開催  
現地参加者 予約不要

日本科学未来館 (7階 未来館ホール)  
会場ではロボット・アンドロイドのデモ  
を体験できます！

オンライン参加者 要事前申込

Zoom ウェビナーで  
の開催。申込み用  
フォームはこちら →

